

<支援方針>

- ① 「遊び」が自立への最大の糧 ② 一人ひとりに合った最適な支援計画
- ③ 自然と触れ合う・社会とつながる ④ 安全第一

- ・作成年月日:令和6年11月1日
- ・営業時間:10:00~19:00(授業日) 9:00~18:00(学校休業日)
- ・送迎実施の有無:有

健康状態

<健康・生活>

- ・きめ細やかな観察から体調の変化を速やかに見つけ出し、安心して過ごせるようにしていきます。
- ・食事、排泄、衣類の着脱など生活に必要な基本的技能が獲得できるよう支援していきます。



心身機能・構造化

活動

参加

<運動・感覚>

- ・公園や遊園地などでかけ身体の移動能力の向上をはかると共に、全ての感覚を働かせる体験ができるよう、計画をしていきます。
- ・室内遊びや食事の時間など、日常生活の姿勢保持や力の使い方ができるよう支援していきます。

<認知・行動>

- ・一人ひとりのこだわりや特性を理解し、混乱が起きないよう環境や遊び方を工夫していきます。
- ・郊外に出かける際には視覚支援（構造化）を取り入れ、情報を把握し的確な行動ができるよう支援していきます。

<言語・コミュニケーション>

- ・相手を意識して要求や思いを伝える力を身につけ、いろいろな友達と交流ができるよう支援していきます。
- ・集団活動に積極的に誘い、友達との触れ合いを通して、コミュニケーション能力を育てていきます。

<人間関係・社会性>

- ・学校生活の様子や悩みを受け止め、思いを話すことで気持ちの安定が図れるよう支援していきます。
- ・公園や電車の中、レストラン等でのマナーを身に着けるとともに、相手と折り合いがつけられることを増やし社会性を伸ばしていきます。



個人因子



環境因子

<郊外行事>

- ・児童センターや博物館等での学習体験 ・工場見学
- ・電車体験 ・プールでの水泳指導 ・キッズ運動会
- ・テイクアウト体験 ・レストランでの食事体験

<室内行事>

- ・お正月の遊び体験 ・お花見会 ・卒業生を送る会
- ・1年生を迎える会 ・キッズ縁日・クリスマス会

<家族支援>

- ・事業所での成長の姿をお伝えし、本人の特性をよく理解し、本人の意思を大切にしたい関わりを増やしていきます。
- ・気になることや話したいことがあるときは、直接あるいは電話などいつでも受けられようとしています。

<移行支援>

- ・学校とは日々の送迎時に情報共有を行い、日常的な場面や行事での支援方法など、特性理解と情報共有を図っていきます。
- ・関係機関との情報共有の場では、本人の状況や支援内容の確認を行い、よりよい支援に繋げていきます。

<地域連携>

- ・近くの公園や施設で家族以外の地域の人へと交流を広げ、豊かな放課後生活が送れるよう支援します。

<職員の質の向上>

- ・個別支援計画会議を実施し、職員全員が同じ支援ができるよう、共通理解を深めます。
- ・日々の支援を振り返り、計画、実践、評価、改善のPDCAサイクルを大切にします。